

琉球大学学術リポジトリ

沖縄における高齢者向け賃貸住宅での公的支援のあり方に関する研究

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2014-05-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小柴, 晃, Koshiba, Akira メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/28634

論文要旨

論文題目

沖縄における高齢者向け賃貸住宅での公的支援のあり方に関する研究

近年、我が国において、高齢社会が着実に進行している。それに伴って、高齢者の住まいは、持ち家、公営住宅、民間賃貸住宅、有料老人ホーム、介護老人福祉施設、医療施設等多様化が進んでいる。そうした中で、核家族化等による高齢者世帯の増加に伴い高齢者向け賃貸住宅の建設も進んでおり、今後さらに、そうした世帯、住宅の増加も予測される。

本研究は、高齢者向け賃貸住宅について、地方公共団体が直接供給しているシルバーハウジングと、近年、増加が著しい民間による高齢者向け住宅の特性と課題を把握するとともに、それらを通じて、高齢者向け賃貸住宅での公的支援のあり方を検討することを目的とした。調査、研究は、公民による高齢者向け賃貸住宅の供給が行われている沖縄県那覇市を事例として実施した。

その結果、シルバーハウジングにおいては、高齢者向けの住宅設備や生活援助員による支援、併設されている福祉施設が高齢者に大きな安心感を与えており、特に、生活援助員の専門性、福祉施設の多様性が重要な役割を果たしていることが確認された。今後は、外部の福祉の専門機関との連携を高め、より適切な支援を進めていくとともに、団地内の施設資源を有効に活用し、高齢者の介護予防を含め健康の保持、増進を支援していくことが重要である。

また、民間による高齢者向け賃貸住宅においては、住宅確保への適切な支援、経済的負担の軽減、使いやすい住宅仕様の確保、日常生活支援や介護、医療等の健康管理支援等が重要であることが確認された。民間の高齢者向け賃貸住宅の増加が予測される中で、高齢者が安心して利用していくことができるよう入居から、在宅、退去にいたる各段階で公的機関の支援充実を図ることが重要である。

ところで、今後高齢者向け住宅は、空き家活用を含め民間住宅を中心に展開されていくものと推察される。その際、高齢者支援と家主を含む住宅管理者支援が重要となる。住宅改修支援、生活支援、入退去支援等様々な支援について、公的制度の柔軟な利用や地域の社会資源の活用等を通じたマネジメントを高齢者の心身状況に応じて進めていくことが重要である。

氏名 小柴 晃